

# 大阪大学大学教育実践センター創立5周年記念シンポジウム 「21世紀型『市民』の育成と学士力」

## <基調講演>

木村 孟

独立行政法人 大学評価・学位授与機構機構長、元・東京工業大学長

榎本剛 文部科学省高等教育局企画官兼高等教育政策室長

## <報告・ディスカッション テーマ「教養教育における学士力を考える」>

工藤眞由美 大阪大学大学教育実践センター長

川嶋太津夫 神戸大学大学教育推進機構教授

山田礼子 同志社大学社会学研究科教授、教育開発センター所長

高杉英一 大阪大学理事・副学長

日時 9月17日(水) 13:00～17:30

場所 吹田キャンパス・コンベンションセンター (2F会議室2)

地下鉄千里中央駅または大阪空港より大阪モノレールで大阪大学病院前駅（阪大東門のそば）下車徒歩10分  
または千里中央より阪急バスで大阪大学本部前駅下車徒歩5分



主催：大阪大学大学教育実践センター

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-16

お問い合わせは 教育実研究部 e-mail: k-office@cep.osaka-u.ac.jp まで





# 大阪大学大学教育実践センター創立5周年記念シンポジウム 「21世紀型『市民』の育成と学士力」

## 開催趣旨

18歳人口の急減期に突入し、今日に至るまで、「入学してくる学生の資質・能力の多様化・分散化」の問題が語られ、学生の学力レベルのばらつきにどう対処するかが、克服すべき大学共通の課題となっています。

FDの義務化や厳格な成績評価・修了認定に関わる法制化に係る諸施策も、上記課題と無縁ではありません。

こうした状況下にあっても、私たちは、受け入れ学生に対して、様々な教育上の配慮を行っていく中で、大学として提供するカリキュラムを十二分に消化してもらい、適切な学力レベルに到達した学生に対して修了認定を行う教育上の責務を担っています。修了認定に当り、大学の責任において学生に付与する「学士」は、これを付与された学生一人ひとりが、教養と専門の両教育課程を通じ、その大学のカリキュラム方針のパフォーマンスとしての適切なコンピテンシーを習得したことの証としてのいわば「学習成果会得証明」としての意義を有していると言ってもよいでしょう。

最近公表された中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて」は、分野横断的に我が国の学士課程教育が共通して目指す「学習成果」を「学士力」として意義づけ、「学士力」の涵養に向けた各大学の取組の方向性について、注目すべき提言を行いました。ここで重要なことは、学士力を「学習成果」と同義のものとして捉えていること、「教養」を身につけた市民として行動できる基礎的能力としてこれを位置づけていること、そしてそれが、学位授与要件を構成する必須的要素として理解されていること、などを挙げるすることができます。

しかし一方で、学士力が「教養」、「専門」の各課程中でどう性格づけられるのか、学士力涵養の仕上がり度を測定するための基礎となるカリキュラムの体系性を如何に確保すべきなのか、そこに盛り込まれる授業科目の内容・レベルをどう設定していくのか、学士力の達成度を測定し評価するためのベンチマークは如何にして設定されるのか、新たな疑問も湧いてくるところです。

本シンポジウムは、そうした昨今の高等教育政策の動向を視野に入れつつ、大学の人材育成機能のあり方に深い関心を寄せられている大学等関係者、政策担当者を招致するとともに学内関係者も交え、上記のような検討課題に留意しながら、「学士力」の問題について共に考え意見交換を行う目的で企画したものです。

